

いじめっ子マグワイアは勇者な訳ない

クソザコぎつね

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

こんなクソ妄想小説を読まないで、スパイダーマン見ようね！

目次

いじめっ子マグワイアは勇者な訳ない

1

いじめっ子マグワイアは勇者な訳ない

時は神世紀300年！場所は四国！簡潔に説明するなら世界の危機！バーテックス多スギイ！勇者ほぼ全滅！

そんな戦場に音楽が流れてきた、なんとも調子に乗ってる曲だ。その曲にノリノリの黒い服を着た外国人の青年が歩いて来た。

「Hi everyone i had to beat an old lady with a stick」

(お待たせ。すみません、ソースの取り合いでお婆さん達と格闘になっちゃって)

その異常な事態に勇者達も困惑せざるを得ない。

「are you ok?」

(大丈夫?)

「・・・」

その青年が勇者達の衣装を一目見る。

「that's a cute outfit, did you husband give it to you?」

(可愛い衣装だね、旦那さんのプレゼント?)

そんな状況でもバーテックス達は襲ってきた。

「I missed the part where that's my problem」

(それが僕とどういう関係があるんだよ)

そう言うのと彼は蜘蛛糸で宙を舞い、小型バーテックス達を一発で倒して行ってしまった。

それは余りにも呆気なく、勇者とは何だったのかと思わせられる強さだった。

「fly」

(飛び上がれ)

彼が手を前に掲げながらそう唱えると、大型バーテックスの内の一つが虹の彼方へ飛んで行ってしまった。

「stings doesn't it」

(痛かったかな?)

すると大型バーテックスの内のまた一体が彼を掴んだ。

「take your hand of me」

(その汚い手を離せ)

そして何倍もある大きさのバーテックスを彼は持ち上げ、神樹の根へと叩きつけた。

「see ya chap」

(じゃあな間抜け)

だがそこに衝撃が走った!なんと天の神が降りてきてしまったのだ!!?

余りの衝撃波に青年も絶叫をしながら吹き飛ばされ、神樹の根へと背中を、ぶつけてしまった!

「my back! oh my back!!!」

(痛ったく、痛ったく)

そこへ天の神が火球を放つ物の、蜘蛛糸で投げ返されてしまった。

「all you guys?」

(その程度か?)

色々と天の神が雷等で攻撃を与える物の、一向にダメージを受けていない。むしろ踊って挑発している!

「now dig on this」

(さあ乗っていこうぜ)

何と踊りながら天の神の雷を跳ね返してきた!しかも下半身から発射している!

「Fooooo!Fooooo!!!」

しかもまだ踊っている。

「wanna put some dirt in your eye
le」

(思い知らせてやるからな)

彼が踊りながら指パッチンをすると、何と全てのバーテックスが塵と化していった。

「you trash」

(お前はクスだ)

するとどこからともなくパンプキンボムが現れ、青年がそれを天の神に投げつけると大爆発を起こした。

「g o n n a c r y?」

(泣くのか?)

泣いているかは分からないが、天の神は少し悲しげにこの世を去って行った……

「……」

後に残されたのは炎が渦巻かなくなり、ある程度復興した人類達。まだ日本しか復活していないが、いずれは元に戻るだろう。

あの天の神との戦いも遠い過去に忘れ去られてしまう。だが天の神による侵攻は何か意味があったのかもしれない。

「大いなる力には大いなる責任が伴う」

人類はそれを本当に為せていたのか。天の神はその過ちを修正しようとしたのではないのか。もう分からない。

だが猶予はあったし、今がその時かもしれない。これは呪いだ。

僕だけでなく、僕達に課せられた。

僕が誰かって？

「PIZZA TIME」

「「「「いえーい！勝利を祝って、かんぱーい！！？」」」」」
僕はスパイダーマンだ。